

の完了を

事業の実

持管理性

縮減、新

に取り組

点検で更

ららかな

の追加を

階段階で

新延長は

は約30

高速の更

で事業費

業費は約

新延長は

いた。

業費は約

いた。

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

業費は約

近未来コンクリート研究会 垣根を越え議論深める 大分高専一宮教授の特別講演も

各協議会の議論のうち、広島工業大学の竹田宣典教授が中心となって進めている「初期ひび割れ抑制技術研究（C）協議会」では、体調不良で欠席した竹田教授の代役を十河代表が務め、初期ひび割れの発生メカニズムや乾燥収縮とひび割れに関するデータをもとに、試験方法のあり方や化学混和剤の使用について議論。今回の内容をもとに、次回協議会でさらになる検討を行うとした。

広島工業大学の坂本英輔教授が主査を担当する「脱炭素コンクリート技術研究（S）協議会」では、大林組の協力で実現した同社技術研究所の見学会の内容が紹介されたほか、脱炭素のための実験結果、今後の計画などが報告され、参加した砂田栄治氏（まるせ）からは、「フライアッシュを混合することでJIS生コンの改正で使いやすくなる」との情報提供もあった。

コンクリートメンテナンス協会の江良和徳技術委員長らによる「RC構造物の延命化技術研究（M）協議会」では、「小規模橋梁の簡易点検要領（案）」を活用した社会実装2件の結果が報告され、今後は再劣化事例の点検、診断、補修にも取り組むとした。また、予防保全を目的に現在作成中の「鉄筋コンクリート橋梁の点検要領」の素案に関する意見交換もなされた。

近未来コンクリート研究会（十河茂幸代表）の今年度第3回目となるテーマ別協議会が16日、広島市中区で開かれ、3つの協議会別にそれぞれ20人前後が対面・オンラインで参加。業種間の垣根を越え、維持管理の最適化に向けた議論をさらに深めたほか、大分工業高等専門学校の一宮一夫教授による特別講演も披露された。



特別講演に立つ一宮教授

このほか、一宮教授の特別講演「セメントを使用しない低炭素型コンクリート開発の現状」では、ビル・ゲイツの著書を引用しつつ、地球温暖化に対する今後のコンクリートの在り方についての熱弁がふるわれ、ジオポリマーを含むアルカリ活性材料を中心としたコンクリートの作り方や品質等を説明。社会実装に向けて努力が必要であることも強調した。

技能検定事前講習会開催 注音占や作業手順など解説

山口県鉄筋（手島健一会長）17日の両日、エ立西部高等産業で「鉄筋施工作業」技能検定「験」に向けた講習会を開催。1級受検者を4人と2級受検者を4人と2級受検者が受講し、作業手順などを講習会で、野誠氏（同）がラクターを務筋を組み立てて

値が管工事750点以上であり、過去10年間に公共工事の元請として、2

12 工事概要ⅡRC造3階建、床面積8137.91

階の一部（居室を除く全域）。既設熱源（吸収式冷温水機）及び付帯設備の

及びパッカーシエアコン（室外機7台、室内機10台）に全面改修、天井内

万円未満